

# 外国語学部第一

## 四 年前、新

設された外国語学部の一期生として、若い学生と共に入学式に臨んだのはついこの間のことのように思えます。

振り返ってみますと、私が社会人学生として入学が決まった時、三〇数年のブランクに

対するいくらかの不安がありました。しかしそれにまさって、年齢の枠を越えて学ことができる喜びの方が

が遙に大きかったと言えます。ただ、授業が始まってみると自分の力に余る科目も多くついていけるかどうか深刻に悩み、何度か「学生相談室」の前でこの悩みを聞いていたかどうかと考

えたりもありません。主婦の生活と学生生活とのギャップにとまどい、慣れるのに多少の時間はかかりましたが焦らずマイペースを心掛けています。当初の気負いと孤独感は徐々に薄れていきました。そしてこの頃には専門科目の講義も多くなり、楽しんで授業を受ける余裕もできてきました。本学には、中国関係の各分野の優れた先生方がおられ、何かと適切なアドバイスもいただき、私にとって大変有意義な学生生活を送れたということが大きいです。

私が在籍した中国語学科は、少人数ということもあり、よくまとまっていた。特に二年の終わり、中国へ短期留学してから学生同士がより親しみを増したように、主婦学生の私も自然に融け込める温かい雰囲気がありました。お陰で思いもかけず若い学生と同じように大学祭や、コンバにも楽しく参加することができました。主婦が大学生活を送ることは確かに大変なことであり、時間的にも又経済的にも負担が大きく困難もあります。しかし、若い世代と

で趣味として中国語を学ぶのではなく、学問としての中国語を学び、その奥の深さを再認識することができました。できればこれからは社会人学生にどんな入学していたら、この楽しさを知り、又向上もしていただきたいと思っています。

今、私は卒業するに当たり、これまで大学という温室の中での受け身の姿勢から、学んだものを活用する時がきたのだと思います。入学前には「中国語の教師になりたい」とも考えていました。人々に中国語を教えることで自身も又向上を図るというのも一つの方法と言えますが、大学で学んだ知識と、ポランテニア通訳の経験を活かして、中国語のガイド試験に挑戦することを次の目標にしたいと考えています。目標を高く置き努力することは励みにもなり、又楽しみでもあります。これからも年齢を忘れて何時までもチャレンジ精神を持ち続けていきたいと願っています。

私が在籍した中国語学科は、少人数ということもあり、よくまとまっていた。特に二年の終わり、中国へ短期留学してから学生同士がより親しみを増したように、主婦学生の私も自然に融け込める温かい雰囲気がありました。お陰で思いもかけず若い学生と同じように大学祭や、コンバにも楽しく参加することができました。主婦が大学生活を送ることは確かに大変なことであり、時間的にも又経済的にも負担が大きく困難もあります。しかし、若い世代と

が遙に大きかったと言えます。ただ、授業が始まってみると自分の力に余る科目も多くついていけるかどうか深刻に悩み、何度か「学生相談室」の前でこの悩みを聞いていたかどうかと考

えたりもありません。主婦の生活と学生生活とのギャップにとまどい、慣れるのに多少の時間はかかりましたが焦らずマイペースを心掛けています。当初の気負いと孤独感は徐々に薄れていきました。そしてこの頃には専門科目の講義も多くなり、楽しんで授業を受ける余裕もできてきました。本学には、中国関係の各分野の優れた先生方がおられ、何かと適切なアドバイスもいただき、私にとって大変有意義な学生生活を送れたということが大きいです。

私が在籍した中国語学科は、少人数ということもあり、よくまとまっていた。特に二年の終わり、中国へ短期留学してから学生同士がより親しみを増したように、主婦学生の私も自然に融け込める温かい雰囲気がありました。お陰で思いもかけず若い学生と同じように大学祭や、コンバにも楽しく参加することができました。主婦が大学生活を送ることは確かに大変なことであり、時間的にも又経済的にも負担が大きく困難もあります。しかし、若い世代と

が遙に大きかったと言えます。ただ、授業が始まってみると自分の力に余る科目も多くついていけるかどうか深刻に悩み、何度か「学生相談室」の前でこの悩みを聞いていたかどうかと考

## これからも続く中国語の学習



中国語学科 卒業生 易子村 野村 易子  
 中国語学科 卒業生 易子村 野村 易子  
 中国語学科 卒業生 易子村 野村 易子

☆野村さんは、社会人学生として入学され、優秀な成績で卒業されました。

## 地域を代表する総合大学にむけて

学長 西村 島夫



一九八七年に名古屋英和学校に始まる名古屋学院を母体として誕生した本学は、来年開学三〇周年を迎えます。

その間組織としての危機を迎えたこともありますが、関係各位の大変な努力と「敬神愛人」を建学の精神として発展してきた本学を守らなければならぬという使命感で、安定と繁栄の道を歩んでいる今日を迎えることができました。

一九八九年の外国語学部の発足、一九九二年の商学部の設置というように、皆さんの母校は大きく歩み続けています。この地方でもその優れた内容によって、国内はもとより国際的にも高い評価を受けている留学生別科を軸にして、外国語学部をはじめ各学部は国際化の要諦に込めるべく、海外の二〇以上の大学と交換計画を結んで、大きな成果をあげてい

す。

大学の母体となった経済学部は酒井学部長のもとに英語に強い国際経済人の養成をめざして、学部の整備と充実がはかられています。し、外国語を通じて異文化とのコミュニケーションを案々と実施できる国際文化人を養成する外国語学部は、佐藤学部長のもとに今年初めての卒業生を出しました。情報教育に画期的な試みを行ない、国際経営の場でも通用するビジネスマンを育てようとしている商学部は、小嶋学部長のもとに清新の気風がみなぎっています。

皆さんの後輩も見事に育っています。昨年十二月三日から二十五日にかけて、第三九回日本学生経済ゼミナール名古屋大会が本学を主催校として開催され、三八〇〇名の学生が全国から集まって大成功でした。

同窓会と同窓生は本学の最大の財産です。同窓生の皆さんが、各界で活躍され、それを束ねている同窓会が加藤末男会長はじめ幹部の皆さんや会員のご協力で、基礎を固めていかれるのは最大の喜びです。さあ一緒に、素晴らしい名古屋学院大学を創りましょう。

